



84.1.9

No.1534

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)
(鉄電)二九三五六(公衆)〇四七二二七二〇七

84 団結旗開きに結集しよう

1015

「国鉄―三里塚」決戦への

意気高らかな出陣式を

動労千葉は一月一五日、県労働者福祉センターにおいて、「84年団結旗開き」を開催します。

内外ともに激動する情勢の中で、全組合員の圧倒的結集で大成功させ、総反撃の突破口としようではありませんか。

生活を守り、平和を実現しよう

「日刊動労千葉」編集委員会は、昨年末、「一九八三年をふり返って」をテーマに、全支部書記長に質問を行いました。

(青年部長については、紙面の都合上、別の機会に掲載します)

全支部の書記長の発言は、階級情勢の切迫の中で、動労千葉の運動路線の正義性に確信をもち、主体的に闘おうというものであり、これを全組合員が確認し共通の決意としようではありませんか。

まず第一に、「世界のできごとで最も印象に残っていることは」との質問には、実に九支部の書記長がグレナダ侵略をはじめとする米帝・レーガンの戦争政策を指摘し、世界平和を求める闘いへの決起を訴えています。

「経済で失ったものは軍事でとりかえず」レーガンの核軍拡・戦争政策は、全世界に戦争の火種をまきちらし、無法・非道の限りをつくっています。

真に、「戦争」という言葉が、現実的ひびきをもってきこえる背すじが凍るような危険な状況にたちいたっています。

われわれは、本当に世界の平和と労働者・人民の解放を望む立場から、米帝の侵略に反対し、全世界でもりあがる反核闘争に連帯し、反帝国主義の闘いにたちあがらねばなりません。

反動中曽根内閣を打倒しよう

第二に、「国内のできごとで最も印象に残ることは」との質問には、全員が、田中角栄に対するロッキード事件・有罪判決にみられる腐敗した自民党政権を弾劾し、レーガン来日を通した「日米同盟強化」に示される日帝・中曽根の侵略戦争政策の激化と対決する闘いの重要性を訴えています。

今日、体制的危機を深める日帝・中曽根は、アジア侵略に脱出口を求め、「戦後政治の総決算」をかけて、戦後史を一変させる軍事大国化・改憲攻撃にうつつでています。

とりわけ、「行革」を中心とする超反動攻撃を押し進める一方、反対勢力の拠点、三里塚と国鉄的をしぼった解体攻撃を激化させており、それは、中曽根内

閣打倒以外に問題解決の道はありえず、「三里塚・国鉄」をめぐる闘いの勝利にそのカギが握られていることを示しています。

こうした中で、「11・9レーガン来日」反対し、唯一、三里塚勢力のみが決起し闘いぬいたことは、三里塚闘争の優位性、勝利性を鮮明にしており、「三里塚と国鉄を基軸にした労働運動」路線の拡大にむけてさらに奮闘し、3・25三里塚現地集会を空前の結集で大成功させようではありませんか。

あくまで原則的に闘おう

第三に、「国鉄内の問題で最も印象に残ったことは」との質問には、やはり全員が日帝・国鉄当局による労働運動解体攻撃の激化をあげ、なおかつ原則的に闘うべきだと主張しています。同時に、動労「本部」革マルの裏切りに対し、激しい怒りを叩きつけています。

今日、中曽根の臨調・行革―国鉄再建監視委員会を通した国鉄労働運動解体攻撃は、動乗勤、昇給協定(マル生的差別分断攻撃)問題にみられるように、国鉄のあり方を一変させる攻撃としてより強まっています。

問題は、動労「本部」革マルが完全に当局の陣営に囲われ、そのうす汚い番犬として、そこから動労千葉、国労解体に攻撃していることです。

今年も動乗勤をはじめ、さらに裏切りと敵対を深めることは必至であり、これを全労働者階級の力でどううちくだけき一掃していくかが最大の課題となっています。

われわれは「国鉄・三里塚を基軸とした労働運動」路線のもと、あくまで原則的に闘いぬき、動労大改革、中曽根内閣打倒をかちとろうではありませんか。そのための戦闘宣言の場として「84年団結旗開き」の大成功をかちとるために、全組合員の圧倒的結集を訴えます。

「84年 団結旗開き」

1月15日(日) 13時

県労働者福祉センター大ホール